

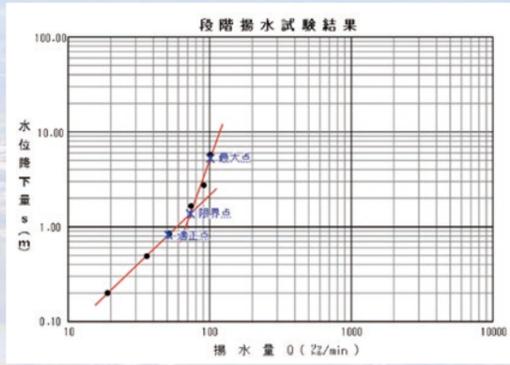
充実したエネルギーインフラ



東京電力パワーグリッド(株) 66kV線

団地エリア北西端に設けた試験井での揚水試験の結果、適正揚水量は団地全体で約70t/日とされました。このため地下水はほとんど利用できず、用水は上水道にて確保していただくことになります。

みぶ中泉産業団地は、エネルギーインフラも充実。特別高圧電力として、団地エリアから最短500mの位置に東京電力パワーグリッド(株)の66kV線が整備されているほか、団地エリアに接する県道沿いには、阪神・淡路大震災、東日本大震災でも高い耐震性が確認できている東京ガスネットワーク(株)の中圧管が埋設されており、安定した都市ガスの供給が可能です。
(※団地内への引込みは各企業の御負担となります)



栃木県企業局 なか いずみ

2025年度 予約分譲案内開始
2028年度 土地引渡し予定

みぶ中泉産業団地



良好な交通アクセス

車でのアクセス

出発地	ルート	距離	所要時間	目的地
東京	東北自動車道→北関東自動車道	約120km	約100分	みぶ 壬生IC
仙台	東北自動車道	約250km	約180分	みぶ 鹿沼IC
茨城空港	北関東自動車道	約70km	約50分	みぶ 壬生IC
茨城港	北関東自動車道	約85km	約60分	みぶ 壬生IC

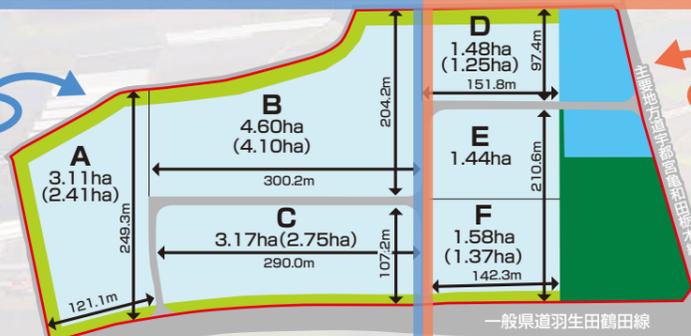
鉄道でのアクセス

出発地	ルート	距離	所要時間	目的地
東京	東北新幹線	約50分		宇都宮
仙台	東北新幹線	約70分		宇都宮
東京	東武日光線	約70分		栃木
東京	東武宇都宮線	約15km	約30分	宇都宮
東京	東武宇都宮線	約15km	約30分	栃木
東京	東武宇都宮線	約25分		おののちまち
東京	東武宇都宮線	約5km	約7分	おののちまち

自由度の高い街区選択

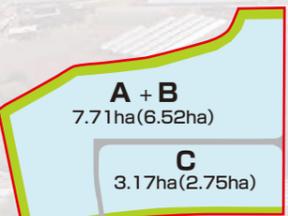
第2期分譲街区

- パターン1
3.11ha×1区画
4.60ha×1区画
3.17ha×1区画



第1期分譲街区

- パターン1
1.48ha×1区画
1.44ha×1区画
1.58ha×1区画



- パターン2
7.71ha×1区画
3.17ha×1区画



- パターン3
11.30ha×1区画

みぶ中泉産業団地では、造成工事の進捗に合わせ、第1期、第2期の2回に分けて土地をお引渡しの予定。
第1期分は約1.5haの街区を3個とするパターン1、約3haの街区と約1.5haの街区を1個ずつとするパターン2を用意。
第2期分は、約3haの街区2個と約4.6haの街区1個とするパターン1、約7.7haの街区と約3haの街区を各1個とするパターン2、全体を約11haの街区1つに統合したパターン3を用意します。
このようにして、第1期分2パターン+第2期分3パターンの計5パターンに対応します。



栃木県企業局
地域整備課

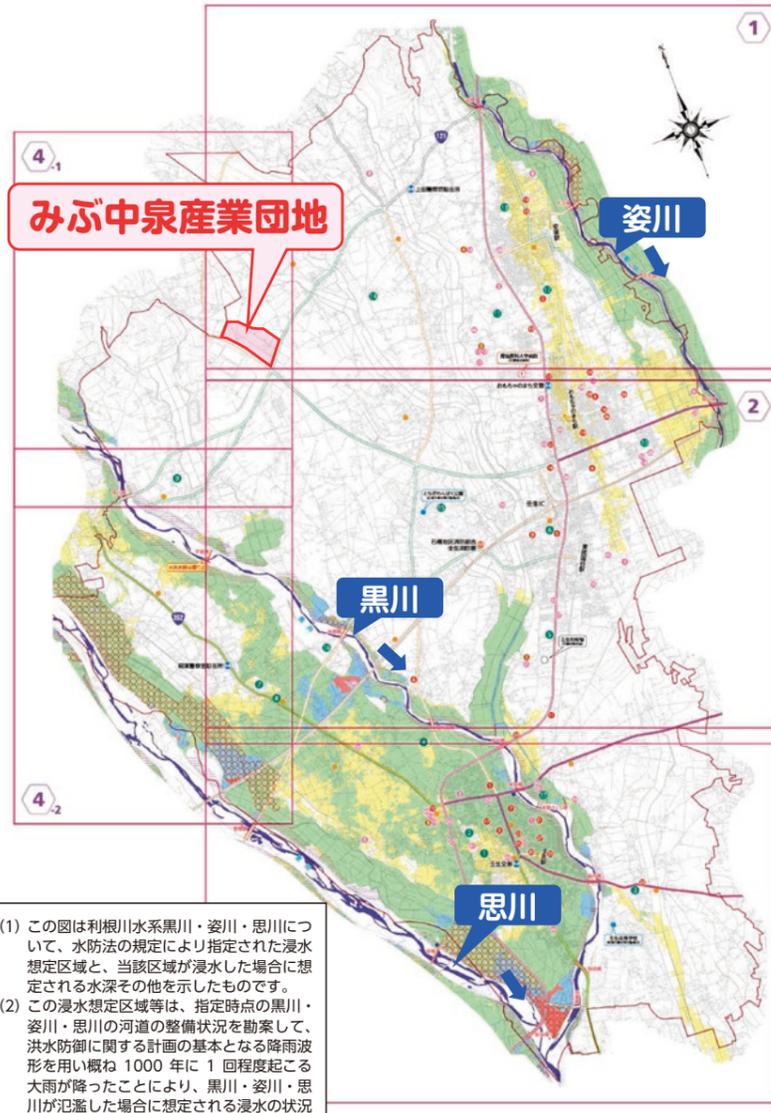
〒320-0031 栃木県宇都宮市戸祭元町1-25
TEL 028-623-3818 FAX 028-623-3826
https://tochigi-kigyoyoku.com/
E-mail kigyoyudo@pref.tochigi.lg.jp



浸水災害に強い地形

黒川・姿川・思川 浸水想定区域図 全域図

「壬生町防災住民マニュアルハザードマップ」より



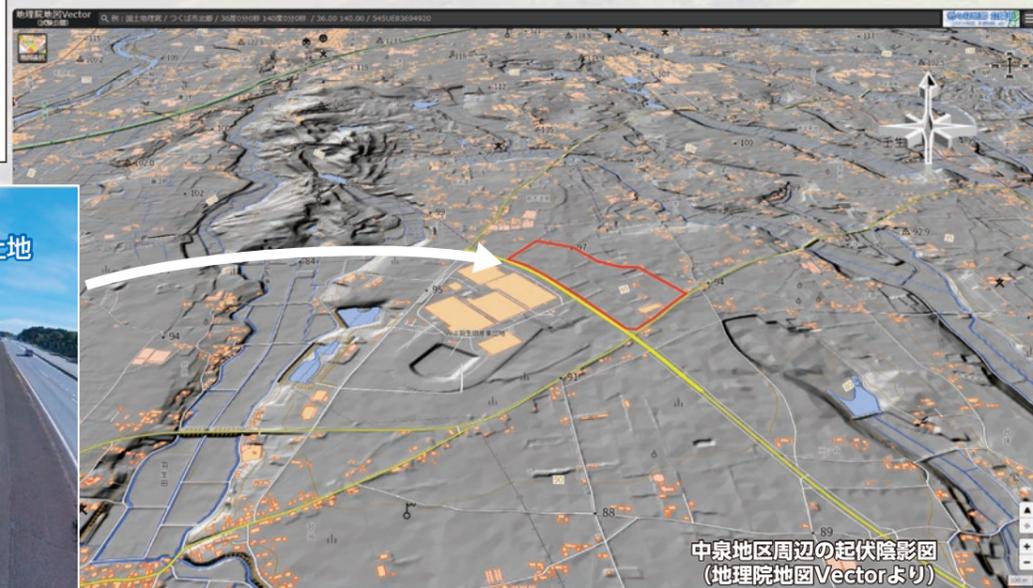
みぶ中泉産業団地

姿川

黒川

思川

- この図は利根川水系黒川・姿川・思川について、水防法の規定により指定された浸水想定区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深その他を示したものです。
- この浸水想定区域等は、指定時点の黒川・姿川・思川の河道の整備状況を勘案して、洪水防衛に関する計画の基本となる降雨波形を用い概ね 1000 年に 1 回程度起こる大雨が降ったことにより、黒川・姿川・思川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
- なおこのシミュレーションの実施にあたっては、支派川の氾濫、想定を超える降雨、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。



道路と同じ高さ 平坦な土地

みぶ中泉産業団地

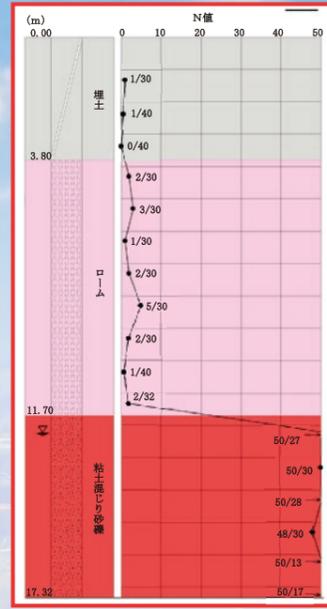
中泉地区周辺の起伏陰影図 (地理院地図Vectorより)

栃木県壬生町は全体として高低差の少ない地形であり、町内に山地・崖地はなく、土砂災害警戒区域も設定されていません。

また壬生町内には、主要な河川として黒川、姿川、思川があり、いずれも町の北西から南東北方向に流れていますが、産業団地を造成する中泉地区は、これらの河川による浸水想定区域から十分に離れた、台地上の平坦な土地であり、洪水浸水の危険性は極めて低く、事業のリスク分散先としても好適です。

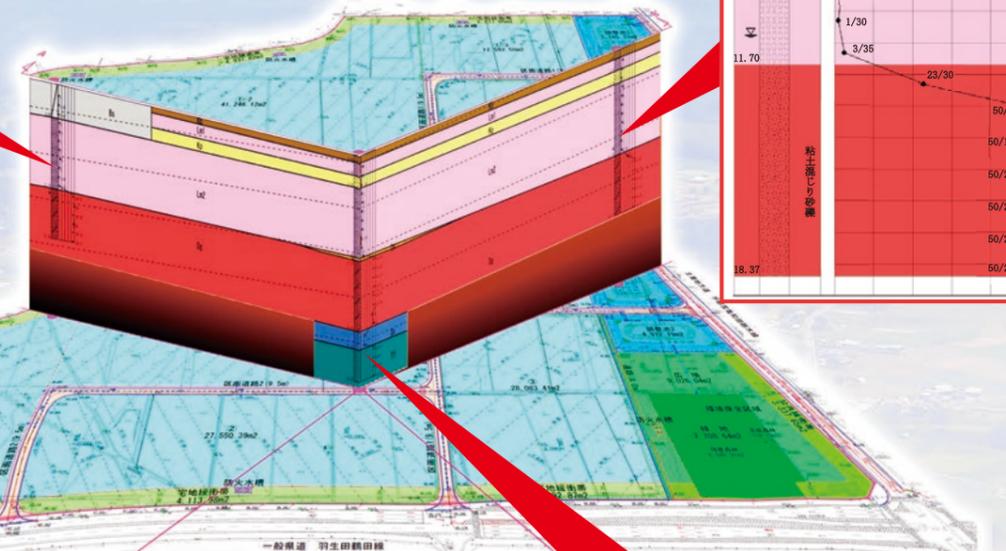


安定した地盤



産業団地を造成するみぶ中泉地区の地盤は、黒ボク層、ローム層、軽石層、ローム層、粘土混じり砂礫層の互層を形成しています。

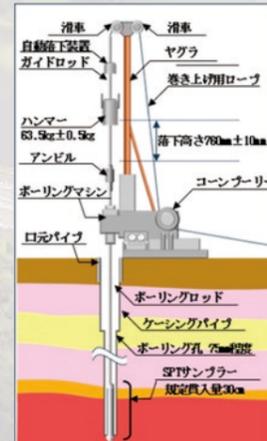
このうち地表下 12m 程度から見られる粘土混じり砂礫層は N 値 *50 に達し、一般に支持層とされる N 値の 30 を十分に上回っています。さらに、地表下 22m 程度からは凝灰岩の岩盤が形成されており、みぶ中泉産業団地はこうした安定した地盤の上に造成されます。



時代区分	地層区分	記号	構成土質・地質	層厚(m)	N値
新第四紀	盛土層	Bs	粘性土	0.90~3.80	0~1
	黒ボク層	Kb	黒ボク	0.50~0.80	-
	ローム層1	Lm1	ローム	1.20~1.60	3~7
	鹿沼軽石層	Kp	鹿沼軽石	1.30~1.60	1~3
	ローム層2	Lm2	ローム	7.40~8.00	1~5
	洪積砂質土層	Ds	粘土混じり砂礫	0.35	-
	洪積粘質土層	Dc	粘土混じり砂礫	3.57~7.90*	23~50以上
新第三紀	凝灰岩	Tf	凝灰岩	3.62*	125~214*

地層区分	地層記号	設計N値	単位体積重量γt (kN/m3)	粘着力c (kN/m2)	せん断抵抗角φ (度)	変形係数E _s (MN/m2)
盛土層	Bs	1	13.0	6.2	0	0.7
黒ボク層	Kb	-	11.9	30.0	0	4.01
ローム層1	Lm1	3	13.6	66.0	0	5.41
鹿沼軽石層	Kp	1	11.2	41.8	0	4.47
ローム層2	Lm2	2	13.8	40.4	0	7.59
洪積砂質土層	Ds	5	16	0	25.0	3.50
洪積粘質土層	Dg	46	20	0	45.3	32.20
洪積粘質土層	Dc	10	16	62.5	0	7.00
岩盤	Tf	140	19.9	323.6	21.2	80.44

標準貫入試験 (SPT) 模式図



1回の打撃で40cm貫入
2回以下の打撃で30cmを超える貫入となった場合は、その回数と貫入値を記載

6回の打撃で30cm貫入

50回の打撃で28cm貫入
打撃回数が50回に達した場合は、その時点の貫入値を記載

* N値とは、土の硬軟あるいは締まり具合の相対値を示す指標で、標準貫入試験 (SPT, JISA-1219) によって求められます。標準貫入試験では、重量 63.5±0.5kg のハンマーを 760±10mm の高さから自由落下させてアンビルを打撃し、SPT サンプラーを 300mm 打込むのに要する打撃数を計測します。この際の打撃数 Number の N をとって N 値といいます。

